

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	○	開放された施設運営をすることが、認知症を病んでいる方々の平穏な生活を保障することにつながると考えている。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	○	支援が利用者にとって適か否かについての判定を観察による判断でみる目安を表示し、自分のケアを改善させているが、もっとその浸透を図りたい。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>		
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>		

ぐるーぷほーむ泰昌園(2階ユニット)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議において、ホームがどのように地域に貢献していけるのか意見を出していただき、それに基づいて話し合っている。</p>	○	<p>GHを運営して5年目に入り、在宅で暮らす認知症の方々を支援できる事業展開を思案している。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>職員全員で自己評価に取り組み、日々の生活を省みたり改善して行く機会だと考えている。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1度の推進会議では、2ヶ月間のサービスの実際等を報告書として作成し、それを基に話し合いをしている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>大阪府社会福祉連盟のGH分科会の一員となり、その会を通じて大阪市担当者に意見を挙げることで、質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>成年後見制度を必要とされる利用者がいたことから、学ぶ機会を得ている。また、利用の必要性があると判断した場合、区の高齢福祉課へ相談し活用できるように支援している。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>職員会議、日々の申し送りの際に、尊厳を守ることの意義について注意喚起を図り、虐待の防止に努めている。</p>		

ぐるーぷほーむ泰昌園(2階ユニット)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約に結びつく、つかないに関わらず、相談者には知りうる全ての情報を提供しよう努めている。不安や疑問を解決した上で契約に至っている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見・不満・苦情等を表出できるような雰囲気作りを心がけている。発言されたことは介護記録に記録すると共に報告・連絡・相談により管理側も不満や苦情にすぐさま対応できる体制をとっている。</p>	<p>○ 直ぐに対応する様心がけている。その事柄については改善されているか継続して注意をはらって行きたい。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>「ホームたより」「運営推進会議報告書」を通じて伝達している。また、必要に応じて話し合う機会を持っている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族が意見、不満、苦情等を表出しやすいように、対話する機会を持ち心情を吐露しやすい様配慮している。</p>	<p>○ サービス担当者会議の際に運営に関することも含めて話し合うよう努めていきたい。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>フロア会議、職員会議などでより質の高いケアが提供できるよう運営に関する意見を聞き改善に心がけている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>常にフロアの状態を把握し、必要な時間帯に職員が確保されるよう勤務の調整に努めている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>たとえ職員が移動や離職する場合でも、利用者のダメージがなく平常なサービスが提供される組織作りを心がけている。</p>	

ぐるーぷほーむ泰昌園(2階ユニット)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>日々の介護を共に省みることで、勤続年数に応じた適切なスキルの育成を進めている。また、法人外の研修の場合、受ける意志を確認した上で参加する機会を設けている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>東住吉区内GHの管理者達が2ヶ月毎に集まって利用者の空床状況等の情報交換をしている。職員には課題持参による他GHの見学や区内GH管理者達が集まって消防署予防課の研修を受け質の相互向上を図っている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>テールームにて勤務外の時間に職員も飲食でき、業務でのストレスを話すことでカタルシスを図ったり問題の解決にむけて意見交換等をしている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>年に2回勤務査定をすることにより、個々の向上心育成と全職員の向上に向けた研修や個人の悩みをききとり共に解決して行く努力をしている。</p>	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>本人から表出することは少ないため、家族から生活歴や現状をきくことで本人のかかえている問題を理解し共感に努めようと心がけている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>話し合いを望まれているチャンスを逃さないよう、時間の調整に対応している。</p>	

ぐるーぷほーむ泰昌園(2階ユニット)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何がニーズなのか、お互いに確認しながら話すようにしている。どのサービスを利用することが、本人にとって最善か自己決定できるよう情報提供に努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	契約に至るまでの間、本人・家族等納得するまでホームへ来訪し、生活状況を見学したり疑問に対しては質問をくりかえす等開放している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々共に生活し、支援していく中で、利用者から学ぶものは多く知らない内に利用者支えられていることに気づくことが多々有る。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	サービス担当者会議に家族にも参加していただくことで、本人と共に支えあうために情報を共有するよう努めている。お互いの役割を確認する機会だと考えている。	○	サービス担当者会議を充実していきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	認知症に罹患する以前の関係に修復できるようなクッションとなる役割を担えたらと考えている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	全職員がセンター方式によるアセスメントに参加することにより、本人への理解を深める。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係が円滑になるよう、職員の働きかけにより協働できるよう支援している。	○	プラスの関係になるよう利用者同士をレクリエーションに参加いただいたり、マイナス場合も1つの要因としてそこから何か発展出来るものがないか考えている。

ぐるーぷほーむ泰昌園(2階ユニット)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約が終了されたご家族の方に、運営推進会議委員を依頼し過去の経験より今後の運営について意見をもらっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	パーセンドケアを重視して介護にあたり、個々に応じた意思を尊重している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の面会や利用者の折に触れた対話から過去の状況を把握し、担当の職員を中心にセンター方式に記入することで理解を深めることに努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人一人の生活記録を記載する事で、一日の暮らしの現状を把握できるように努めている。	○	生活のQOLを高めていけるよう個々のデイリープログラムの見直しをしていきたいと考えている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族、担当介護職員、介護主任、当ホーム保健師兼ケアマネ、管理者でサービス担当者会議を開催し、個々に納得のいく介護計画を作成している。本人が理解可能な場合、本人を含む話し合いができればと考えている。	○	夫々の立場の役割が再認識でき協働で本人を支えていることをより意識づけることができる。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3カ月に1回のモニタリング、6ヶ月毎の介護計画作成。ADLの急激な変化によりQOLの低下が考えられる場合はフロア会議が開かれ再度モニタリングし計画書の見直しをしている。		

ぐるーぷほーむ泰昌園(2階ユニット)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者一人に1日、1枚の日常生活介護記録を記入し情報を共有しながら実践や介護計画の見直しへとつなげている。1日2回申し送りを口頭にて行うことで情報の共有をしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	生活の匂いから放れた1階のティールームで面会していただいている。また、1階に機械浴槽を設置しており、必要に応じて利用できる様配慮している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議に参加いただいている民生委員の方に訪問いただき、利用者と交流の機会を持ち新たな人間関係を広げている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	行く行くGH入居を選択せざるをえないと考えている家族の見学の際、他のサービスを利用することで出来る限り在宅で暮らせるよう、地域の他ケアマネや他事業者に相談し、知りうる限りの情報の提供に努めている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	長期的なケアマネジメントについて、司法書士の方や包括支援センターの職員の方に相談の必要性がある場合、運営推進会議の中で取り上げ、解決へとつなげている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族が信頼している医院や当GHの協力医療機関による加療を、当職員・保健師により医師との情報交換を通じて健康管理を行っている。		

ぐるーぷほーむ泰昌園(2階ユニット)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉と心が連動している挨拶の仕方を身につけるよう努めている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員サイドの支援にならないよう朝の申し送り時に注意喚起して業務にあたっている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活する上で、コミュニケーション技術を駆使し支援していく場面を多くもつことが本音の表出へとつながると考える。	○ 外出の機会を積極的にもちたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	専属の理美容室へ行き整容する人、当グループホームへ出張して下さる理美容師により整容する人、職員によりカット・毛染めする人等それぞれの好みに合わせて支援対応している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	夫々の持味を生かした活動が出来る場面設定を考え生活援助している。	○ 2ユニット合同で食事を楽しめる場面を設定しているが、もっと質の高い場面への展開を願っている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の好みに沿えるよう、配慮する姿勢でいる。	

ぐるーぷほーむ泰昌園(2階ユニット)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄の記録を継続的にみることで、自立に向けた支援をしている。布パンツ、リハビリパンツ、パット等の使い分けで日中はオムツ減らしに努力している。日中、排泄パターンを把握しタイミングよく気持ちよい排泄となるよう心がけている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴していただけるよう準備している。入浴できない方には、足浴を午前中にする等、下肢保温・浮腫軽減・疲労回復を図っている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人一人の状況に合わせて、心理的に安心されるよう声掛けとともに行動するよう努めている。また、プライベート空間への入室の際に許可を得てから入室する様な配慮を大切にしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者が活き活きとした表情で暮せるよう、提供すべき内容について常に試行錯誤している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在の利用者の中には、お金を所持したり使えるよう支援を必要としている方はいないが、今後入居される方がその支援を必要とされる場合は本人が理解できるような援助をしていく姿勢でいる。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望に沿えるよう十分な人員配置による支援をしている。また、家族の協力を得て、他の利用者も共に戸外へ散歩等の機会を得ている。	○	外出、買い物時、レジでお金を支払う体験をしているが機会は少ない。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ホームの年間行事の中で本部である河内長野市へ出かける機会をもっている。また、家族とスムーズに外出できるよう配慮している。そうすることで家族から孤立しているとの感じが深まらない様気をつけている。	○	常に安全を確保した外出を提供したい。

ぐるーぷほーむ泰昌園(2階ユニット)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	能力的にはできない方がほとんどだが、認知症初期の段階では年賀葉書や暑中見舞い葉書等を書く援助をしたり、電話に取り次ぐ援助をしてきた。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間を決めない事で、気持ちよく来ていただけるようにしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	介護側の判断で身体拘束はされていない。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけているが、あくまで安全確保のためであり、「外にいききたい」との意向時には職員が同行している。フロアから離れられない時は、その理由を説明し暫時待つて頂きその後意向にそって行動している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	六感を働かせ、目配り・気配り・心配りを常に意識するよう指導している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	整容品(ハミガキ粉、ヒゲソリ用品)は、その方の状態で居室に置いている。常に、試行錯誤して取り組んでいる。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人一人の身体状況を常に把握し、起こりうる事故防止にむけた話し合いを進めている。ヒヤリハット報告書を検討し、再発防止に取り組んでいる。		

ぐるーぷほーむ泰昌園(2階ユニット)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	連絡網を密にし管理者、保健師、介護主任等の指示による対応をしている。起こりうる利用者の急変や事故を想定して手当てや初期対応の教育に心がけている。	○	全員が周知していくためには、職員会議の際に繰り返し話し合い共通認識を持つことが必要と考えくりかえし何回も同じことを議題にのせている。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練を年2回実施することで、確実に避難できるよう職員の体験蓄積を行っている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族と対応策を話し合うことで協力を得たり、情報の提供を受けて介護スキルの向上に努めている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	介護職員が記録を残すと共に、保健師、管理者にすみやかに報告し、対応につなげていけるよう心がけている。チームケアの中、情報共有している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の介護記録には現在服薬中の薬名が記載され、職員一人一人が薬効を理解し正しく服薬する事を守り、服薬後の副作用等症状の変化には観察強化を図っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	保健師の指導の下、職員一同取り組んでいる。食物繊維と腹部マッサージ及び緩下剤の利用により排便の適正化を図っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔予防、誤嚥防止に向けて、毎食後の口腔内清掃(フロッシング・リッシング・ブラッシング)	○	歯の状態がかなり悪く、維持が難しいと判断する利用者については、歯科医師による口腔チェックと歯科衛生士による清掃指導がされている。

ぐるーぷほーむ泰昌園(2階ユニット)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養バランス、水分量を日々記録することで、利用者の状態を知り、それをふまえた支援をしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	保健師の指導の下、感染マニュアルを作成し、感染予防を実行している。手洗い、うがいの徹底を図っている。	○	感染予防実行委員設置によりリスクマネジメントの徹底を図って行く。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材管理は管理者、介護主任、食材担当者等複数でチェックしている。また、台所、調理用具等の衛生管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ティールームへの出入り口は間口が広く、自動ドアで入りやすい雰囲気を作っている。玄関口に出勤職員の写真を貼る事で、家族の方が職員に声をかけやすいよう働きかけている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々にあった椅子や作業テーブルの配置を行い、共有空間で過ごす時間を多く持つように考えている。日中は、不快な光がないよう配慮しつつもできるだけカーテンを開けて過ごしている。また、季節感を感じてもらえるように貼り絵、折り紙で利用者の方と作成し飾って楽しんでいる。	○	日中、個人の居室で過ごされる方はほとんどおらず、共有空間での生活が多いため衝突がしばしばある。配置をかえたり、誘導時間をずらすなどして試行錯誤している。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1階のティールームや4階屋上テラスへ誘導し、一人一人の居場所づくりを心かけている。		

ぐるーぷほーむ泰昌園(2階ユニット)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の好みを重視し、安全面でも考慮した上で、本人が納得されるように配慮している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度計や湿度計を設置して注意を促しているが、五感を中心に第六感も鋭敏に働かせ高齢者の身体状況に合わせた環境維持に努めている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1階ティールーム、4階屋上テラス2・3階ユニットと建物内部の移動をすることによって、気分転換となる空間作りをしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	整理整頓に心がけ、出来るだけ収納場所を変えないよう配慮し、思うままに生活していただける環境づくりに心がけている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	1階南側、4階屋上テラスに園芸を楽しめるスペースを用意している。	○	利用者間でお互いを思いやる空気が育ちつつあり情緒的なその感情はダミー人形を育てる事で共通の発散を図っているが、犬等生き物を育てることでより一層カタルシスの昇華に寄与したり思いやる心を育てられればと考えている。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

ぐるーぷほーむ泰昌園(2階ユニット)

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

認知症が重度化した利用者が多く、本人の心を見て介護するよう努めている。また、軽度の方には役割りを持って生活できるように支援している。